

令和6年1月31日

大山町議会議長 米本 隆記 様

大山町議会議員

池田 幸恵



大山町議会議員派遣報告書

1	目的	JIAM 令和5年度 政策・実務研修 「地域が稼ぐ観光戦略～選ばれ続ける地域を目指して～」
2	派遣場所	滋賀県大津市唐崎 全国市町村国際文化研修所
3	期間	令和6年1月29日(月) ～ 1月31日(水)
4	派遣議員	池田幸恵
5	報告	1月29日 【講義】 観光政策の現状と課題 【講師】 観光庁 観光地域振興課 広域連携推進室 課長補佐 水野 敦大 【内容】 ・観光の意義や最近の状況を確認し、観光の今後の方向性については、全国の成功事例をもとに「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」やそれをもとにした「生産性・収益性の向上」を学んだ。 また、インバウンドの状況においては、コロナ前以上の回復率となっており地方における高付加価値な観光地づくりの必要性と共にオーバーツーリズム対策の必要性を学んだ。 【講義】 地域の個性を活かした観光戦略 ～“人を集める観光”から“地域が稼ぐ観光”へ～ 【講師】 近畿大学経済学部 教授 高橋 一夫 【内容】 ・「住んでよし」「訪ねてよし」「稼いでよし」と、人を集めるから地域が稼ぐに意識を向け、観光は「産業」という視点を学んだ。また観光の守備範囲の確認をすることによって観光振興の目的【ビジネスの創出（観光経済

波及効果) = 旅客客数×客単価×域内調達率]による雇用と所得向上につなげてこそ観光振興であり観光の6次化必要性を学んだ。

DMOについては、①DMOによるマーケティング・マネジメント②観光行政によるエリアマネジメント③組織そのもののマネジメントの役割分担、誰が主体となって集客するのか、DMOと行政の役割分担の必要性について学んだ。

1月30日

【講義】

事例から学ぶ ファシリテーター 篠原 靖氏

事例紹介①大館市の取り組み 阿部拓巳氏

事例紹介②長崎市の観光まちづくり 股張一男氏

【演習】

グループ討議

1. 稼ぐ観光に着目した仕組みづくりを推進するうえで、現状と課題
2. 今回の企画で目指す事業・達成目標(具体的な取り組み内容や数値目標なども記載)
3. 目指す状態・目標を達成するための「稼ぐ仕組みづくり」を取り入れた新たな観光事業の提案、もしくは現状の観光事業の改善
 - ① 今回の取り組みで何がどのように活性化するのか?
 - ② 稼ぐ観光!誰がどのようにマネタイズできるのか?

1月31日

グループ討議(発表・講評・まとめ)

【感想】

今回の研修でコロナ終息後から日本の観光が大きく変わってきており、激変する観光マーケットの最新動向の把握・稼ぐ観光のための視点を持つこと。

行政でないとできないこと、行政ではできないことを共有し行政とDMOの役割分担を、また地域の規模に応じたDMOの体制づくりが効果的・効率的な観光振興を推進し『観光を産業』につながることを感じた。